

業績・財務ハイライト

当期の業績について

中国を中心に放電加工機の販売台数が大きく増加したことにより
売上高・利益共に期初計画を大幅に上回りました。

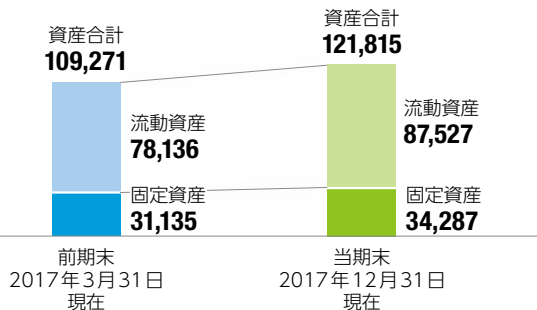
※当期(2017年12月期)は事業年度変更に伴い、9か月の変則決算となっております。

売上高
656億4百万円

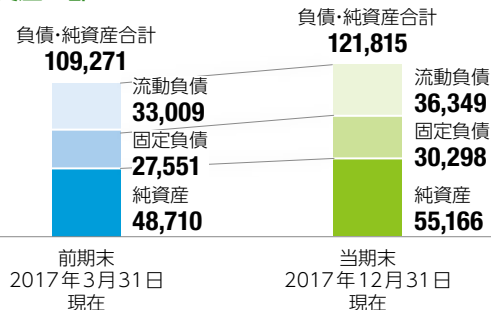
営業利益
74億90百万円

連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)

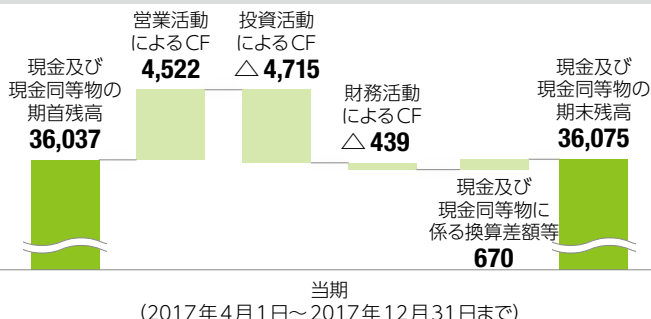
資産の部



負債・純資産の部



連結キャッシュ・フロー(CF)計算書の概要 (単位:百万円)



POINT B/S:受注台数増加に伴い、売上債権、棚卸資産が大きく増加。また、物流センター、北米の新社屋等固定資産の増加により、総資産は前期末比で大幅に増加。財務面は利益の積み上げにより自己資本が大きく増加し、財務体質が改善。

POINT C/S: 営業CFは、当期純利益が大幅に増加した一方、受注増加に伴う売上債権、たな卸資産の大幅な増加等により、45億22百万円と前期末比では減少。投資CFは、加賀事業所の物流センター、横浜本社の新研究開発棟、北米拠点の新社屋等の有形固定資産取得等により、47億15百万円と大幅に増加。財務CFは、大きな資金調達等も無く大きな変動は無し。現金及び現金同等物の期末残高は前期末比約37百万円増の360億75百万円となりました。

IRサイトでさらに詳しく

IRサイトでは、決算短信、決算説明資料など更に詳しい決算情報をご覧になれます

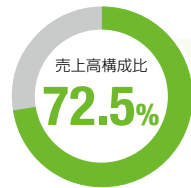
https://www.sodick.co.jp/ir/ir_note.html

ソディックIR

検索



■ セグメント別の概況 (単位:百万円)

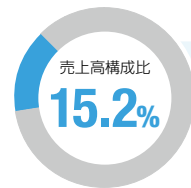
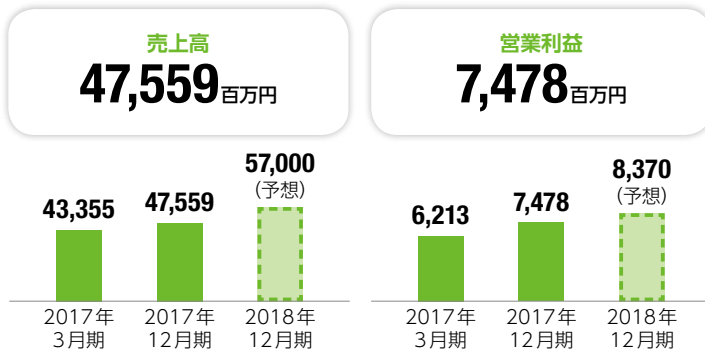


工作機械事業

放電加工機、マシニングセンタ、金属3Dプリンタ等の開発・製造・販売

最大市場である中国を中心に販売が堅調に推移。売上高、利益共に期初計画を大きく上回り業績をけん引。

当社の最大市場である中国では、ものづくりの高度化や自動化対応、中国政府の補助金政策の影響により、自動車関連やスマートフォン関連を中心に受注、販売が期初計画を大きく上回り業績をけん引しました。例年中国で受注が減速する秋口以降も、幅広い産業から旺盛な需要が継続しています。北米の需要はやや一服感がある一方、日本ではものづくり補助金の影響が追い風となり、欧州でもドイツ、イタリアを中心に、自動車、航空宇宙関連が引き続き堅調に推移しました。その他アジア地域も、自動車、半導体関連が回復基調にあります。

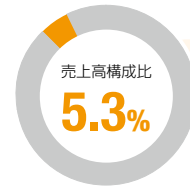
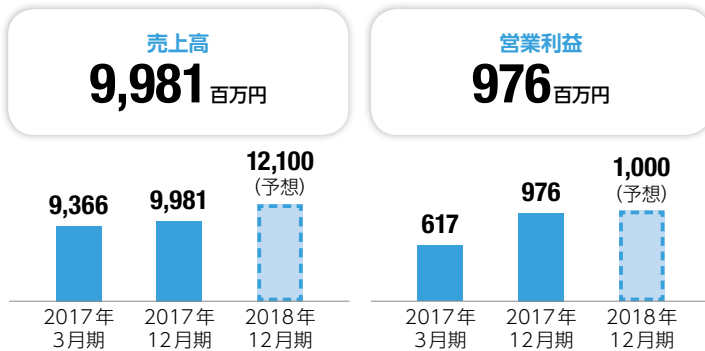


産業機械事業

射出成形機等の開発・製造・販売

日本、中国、アジアを中心に高付加価値部品向けの旺盛な需要を取り込み利益率が大幅に向上。

日本、中国、アジアを中心に車載用コネクタやセンサー部品のほか、スマートフォン及び車載カメラ用光学レンズなど高付加価値部品向けの需要が堅調となりました。また、スマートフォンの防水機能強化のためのシリコン成形機の需要も底堅く推移いたしました。

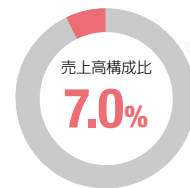
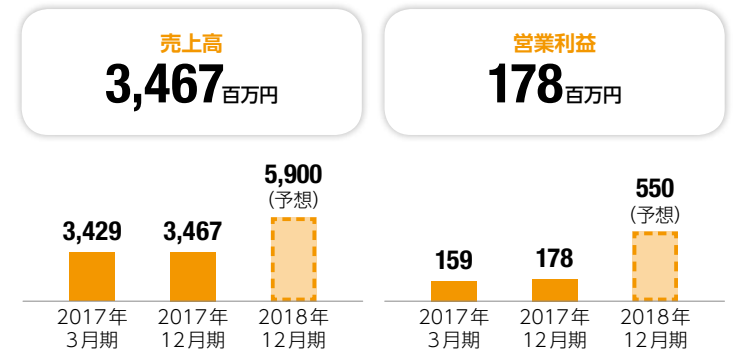


食品機械事業

麺製造プラント、製麺機等の食品機械の開発・製造・販売

製麺業界の堅調な需要に加え、製菓・包装米飯業界や自動化装置への需要も拡大。計画通りの売上高で着地。

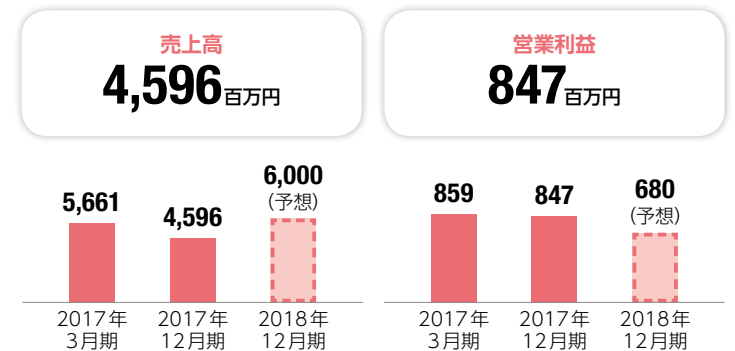
高品質な調理麺の製造設備需要が引き続き堅調となったほか、健康志向の高まりによる豆腐麺などユニークな麺製造向けや、製麺設備の一部を応用した包装米飯製造装置の需要も見られました。省人化、衛生面の向上を目的とした自動化設備の需要も拡大しています。複数案件で検収が遅れておりましたが、第3四半期に検収が進んだ結果、概ね計画通りの売上高で着地いたしました。新製品立ち上げコストの一時的な発生により利益は伸び悩みました。



その他事業

プラスチック成形品等の製造・販売、リニアモータ応用製品、セラミック製品及びその制御機器、LED照明等の開発・製造・販売、放電加工機等のリース

精密金型・精密成形事業は、自動車関連から旺盛な需要が継続したほか、活況な半導体製造装置向けにセラミックの販売も好調に推移いたしました。



IRサイトでさらに詳しく

IRサイトでは、決算短信、決算説明資料など更に詳しい決算情報をご覧になれます
https://www.sodick.co.jp/ir/ir_note.html

ソディックIR 検索



※ 2017年12月期は事業年度変更に伴い、9か月の変則決算となっております。